

## 第24期第6回常任理事会議事録

日時 昭和62年3月26日(木) 13:30~16:30

場所 気象庁観測部会議室

出席者 山元, 関口, 中村, 土屋, 河村, 重原, 村上,  
荒川, 能登

## 議事

## A. 報告事項

## 〔講演企画〕

春季大会講演申し込みを3月10日に締切った。申し込みは260で、そのうち26がポスターセッション希望であった。

また、講演企画委員の交替により、事務局を気象研究所にうつすことを検討中である。

## 〔教育と普及〕

「普及講座」を終了。新たに「気象談話室」を計画している。第21回夏季大学は8月3~6日に行う。統一テーマは「雲」。

## 〔総合計画〕

(1) 日本学術会議第14期会員推薦手続日程等について報告があった。

(2) 日本学術会議からの研究動向に関するアンケート調査について、調査項目のうち1~6項までを「天気」「集誌」の担当理事に依頼する。

## 〔学術用語〕

増訂版は校正が遅れて4月に刊行の予定。「学術用語集(気象学編)」の用語は一度きめると変更がむずかしいので慎重に対処すべきである」との評議員会の指摘をも含めて、刊行後、委員会で検討する。

## B. 審議事項

## 1. 昭和62年度予算案について

全理事に予算案を送付して意見を求めたが、意見はなかった。

学術用語集気象学編の校正の経費が承認された。

第3回水資源シンポジウムの分担金を昭和62年度予算に計上することが承認された。

## 2. 大会予稿集の著作権について

講演企画委員会から原案が示され、承認された。

「天気」と「気象研究ノート」の著作権について

は孫引き等の問題もあるので両者合同で検討する。

著作権についての解説を天気に掲載する。(担当:村上理事)

3. 日本気象学会弔事に関する内規(案)について庶務担当理事から資料にもとづき説明があり、一部修正のうえ承認された。「天気」に会員の消息に掲載することを検討することになった。

4. 山本賞候補者推薦委員会委員の承認について次の委員が承認された。

気象集誌より 天気より

浅野正二(気象研究所) 河村 武(筑波大学)

武田喬男(名大, 水圏) 饒村 曜(気象庁)

宮原三郎(九州大学) 栗原和夫(気象庁)

村上勝人(気象研究所) 藤谷徳之助(気象研究所)

安田延寿(気象大学校) 菊地勝弘(北海道大学)

## 5. 委員の交替について

次の委員の交替が承認された。

## (講演企画)

旧

新

渡辺正夫(東京管区) 岩倉 晋(東京管区)

渡部文雄(予報課) 滝 良二(予報課)

## (教育と普及)

大関 誠(数値予報課) 田宮久一郎(数値予報課)

## 6. 学会賞, 藤原賞について

受賞者選定規定にもとづき、全理事による無記名投票の結果、賛成多数で次の会員が受賞者に決定した。

## 学会賞

秋山孝子会員, 山形俊男会員

## 藤原賞

川口貞男会員

選考基準については今後検討していくことを確認した。

## 7. 堀内会員からの寄付について

堀内会員から当学会に対して、大気科学の研究を奨励したいということで寄付があり、この寄付を受け入れることが承認された。なお、用途については「奨励金候補者及び各賞推薦委員会」委員長を委員長として、学会賞, 藤原賞, 総合計画お

よび庶務の各担当理事で検討のうえ、案を作成することになった。

#### 8. 事務局職員の任期延長について

会計担当事務局職員の任期を1年延長することが承認された。

#### 9. IAMAP の招致について

5月の総会の席上で話ができるように次回の常任理事会で招致について決定することになった。

#### 10. 「熱帯における微気象と大気汚染に関する会議」

の後援について

1988年2月ニューデリーで開かれる上記会議について、インド気象学会からの協力依頼について、後援は行いが、財政的援助は行えない旨、通知することになった。

#### 11. 会員の新規加入について

個人会員長井嗣信ほか6名の新規加入が承認された。

## 出版情報

発行者：インド気象学会

著者：Gilbert Walke

表題：「Long Range Forecasting of Monsoon Rainfall」

価格：100ルピーまたは36米ドル、インド気象学会員は60ルピー

申込方法：直接気象学会へ

## 訂 正 (お詫びして訂正いたします)

巻・号	頁	誤	正
34. 4	242 末尾	京都大学理学部	三重大学教育学部

編集後記：本誌がお手許に届けられる頃には、気象学会春季大会や気象記念日も終わり、慌ただしさも一段落というところではないでしょうか。潮来ではそろそろアヤマが咲き始め、「麦秋」の季節でもあります。しかし、最近の様に麦がほとんど輸入されるような状況ですと、この言葉も死語になってゆくのではないのでしょうか。

さて、今月号には2つの解説記事を掲載しました。1つは、最近よく話題となる炭素ガスの問題に関連して、少しこれまでとは視点を変えて、ミクロな立場からの二酸化炭素の変動測定を取り上げてみました。この話題について、長年にわたって二酸化炭素変動計を開発してこられた岡山大学の大滝氏に、その開発の経過を解説して頂きました。これを読むと、1つの計測器を開発するには、20年というような長い期間と粘り強い意志が必要

であることが認識されます。

もう1つの解説記事は、日頃あまり目に触れることのない、中国における室内実験の状況を、最近中国で共同実験を実施されてこられた京都大学の文字氏に解説して頂きました。最近の日本ではほとんど行われることのない台風の室内実験が、どちらかというと思えない実験環境のもとで精力的に行われている様子が分かります。独自の立場から、地道に気象学の研究に取り組んでいる中国の姿勢が感じられ、いろいろと教えられる所が多い内容です。また、文字氏には滞在された香河大気物理観測所の生活についても書いて頂いておりますので、両者を併せて読むと一層興味深いのではないかと思います。

(T. F.)